



綾部市の  
「あい」のある学習Ⅱ

～「あい」のある学習の継承と発展のために～

令和2年4月

綾部市教育委員会  
綾部市確かな学び育成会議



## 目 次

はじめに

### 第1章 「あい」のある学習と新教育課程

- ① 新教育課程が目指すもの ..... 1
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を実現する  
「あい」のある学習 ..... 4

### 第2章 「あい」のある学習の成り立ちと基本概念

- ① 「あい」のある学習の成り立ち ..... 6
- ② 「あい」のある学習の基本概念 ..... 6
- ③ 「あい」のある学習の成果 ..... 7

### 第3章 「あい」のある学習の基盤

- ① 「あい」のある教室づくり ..... 9
- ② 「あい」のある教室のポイント ..... 10
- ③ 質の高い学びを求めて ..... 11
- ④ 「自ら学ぶ力」を高めるために ..... 15

### 第4章 「あい」のある学習の今後

- ① 担い手の育成 ..... 17
- ② 校内研修・授業研究会の充実 ..... 17
- ③ 「あい」のある学習の進化と発展 ..... 19

おわりに

## はじめに

綾部の子どもに「質の高い学力」を身に付けさせたいという思いで「綾部市の『あい』のある学習」冊子を作成したのが、平成25年3月のことでした。それから早7年が経ちました。

この間、綾部市内のすべての小中学校・幼稚園、それぞれの教室・保育室で「あい」のある学習を意識した授業実践・研究が行われました。教師は、この冊子を拠り所として授業改善に取り組み、かつての教師による講義調の授業を脱し、児童生徒主体の授業へと変貌を遂げつつあります。そして、その効果は、児童生徒の学習意欲の向上に、また学力の向上にと、様々な形であらわれています。

この7年間の積み上げと成果は大きいと感じていますが、同時に進行した教育界における大量退職・大量採用等により、教職員の入れ替わりが進む中で、新学習指導要領の完全実施を控えて、今一度、「あい」のある学習創設時の「魂」を確認しておく必要を感じています。

そのためには、なぜ「あい」のある学習が生まれたのか、目指す授業像と具体的な実践とはどんなものなのか、その効果はどうかなどの基本を改めて確かめることが必要です。そしてそれを踏まえて、令和3年度から完全実施される新学習指導要領に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する綾部市独自の手法である「あい」のある学習をいかに充実させていくかを考えていくことができればと思い、この冊子「綾部市の『あい』のある学習Ⅱ」を作成しました。

この新しい冊子が、「あい」のある学習の継承と発展に、そしてキャリア教育を軸とした新しい小中一貫教育の充実にも、更には一人一人の先生方の授業実践に大いに寄与するものとなることを願っています。

令和2年4月

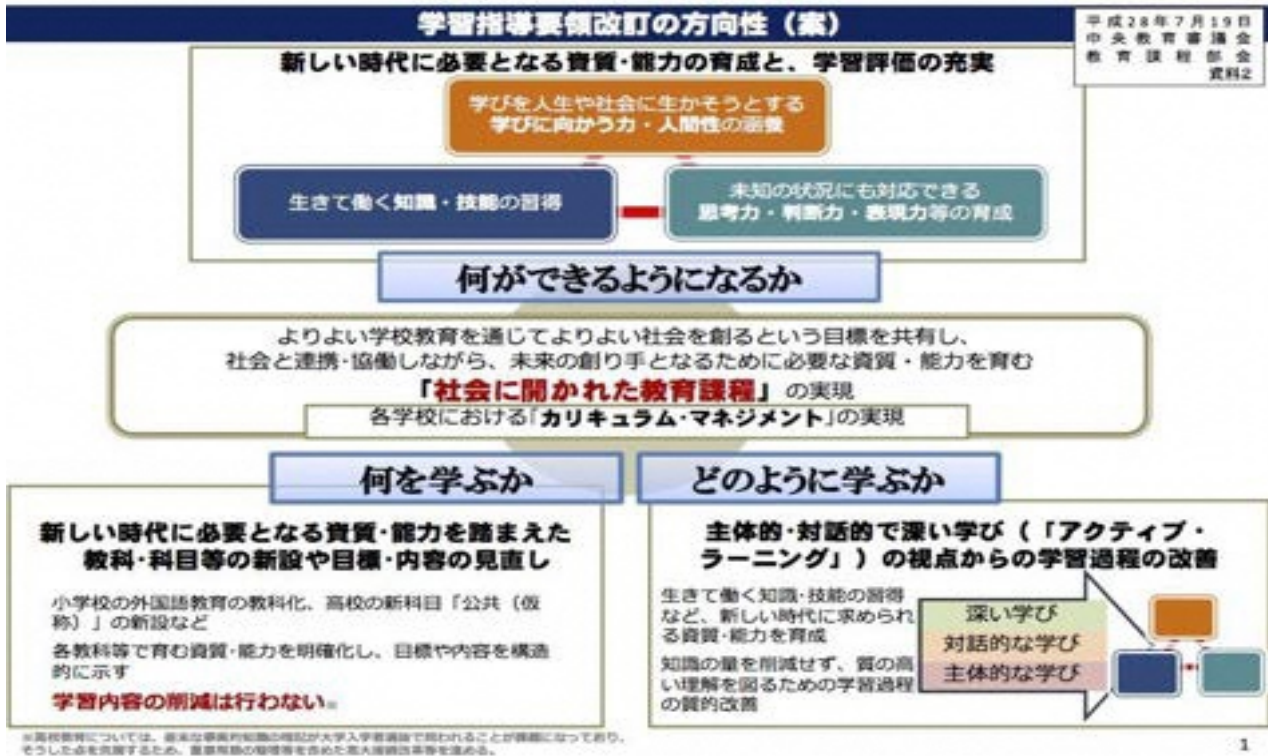
綾部市教育委員会

教育長 足立 雅和

# 第1章 「あい」のある学習と新教育課程

## ① 新教育課程が目指すもの

いよいよ令和2年度から小学校で、令和3年度から中学校で、新学習指導要領が完全実施されます。新学習指導要領についての理解のためには、下の図がよく使われています。



この中には、新教育課程を考える上でのキーワードがいくつも出てきます。その中でも、最も核となる言葉は何でしょうか？

それは「資質・能力」です。「資質・能力」を育むための「社会に開かれた教育課程」であり、「主体的・対話的で深い学び」であるからです。

「資質・能力」は各学校（綾部市の場合は小中一貫教育を実施しているのでブロック）で、教育目標や目指す子ども像から設定されます。それに向かって、教育課程が編成され、いろいろな教育実践が行われることとなります。

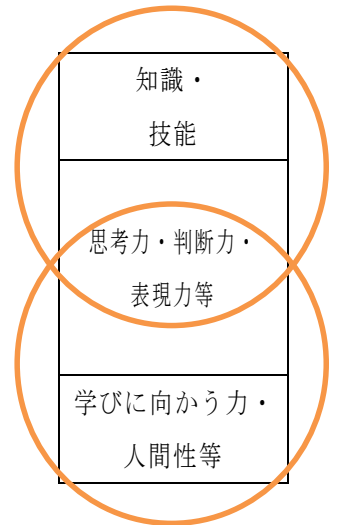
京都府では、「平成31年度学校教育の重点」において、認知能力と非認知能力を一体的に育むことが重点戦略として示されています。認知能力は、各種学力調査やテスト等で測れるものであり、非認知能力は測ることができないもので、現在のところ限定的な定義はありませんが、例えば、粘り強さやコミュニケーション能力などが挙げられます。これらは、数値として測ることはできませんが、向上させることができると分かっています。また、認知能力が上がれば非認知能力も上がり、非認知能力が上がれば認知能力も上がるという相互作用があることも分かっています。従って、京都府では、学力診断テストの結果から、認知能力と非認知能力を一体的に育むことで、子どもたちに「生きる力」

としての「資質・能力」を育んでいこうと考えているのです。

京都府 平成 31 年度重点戦略

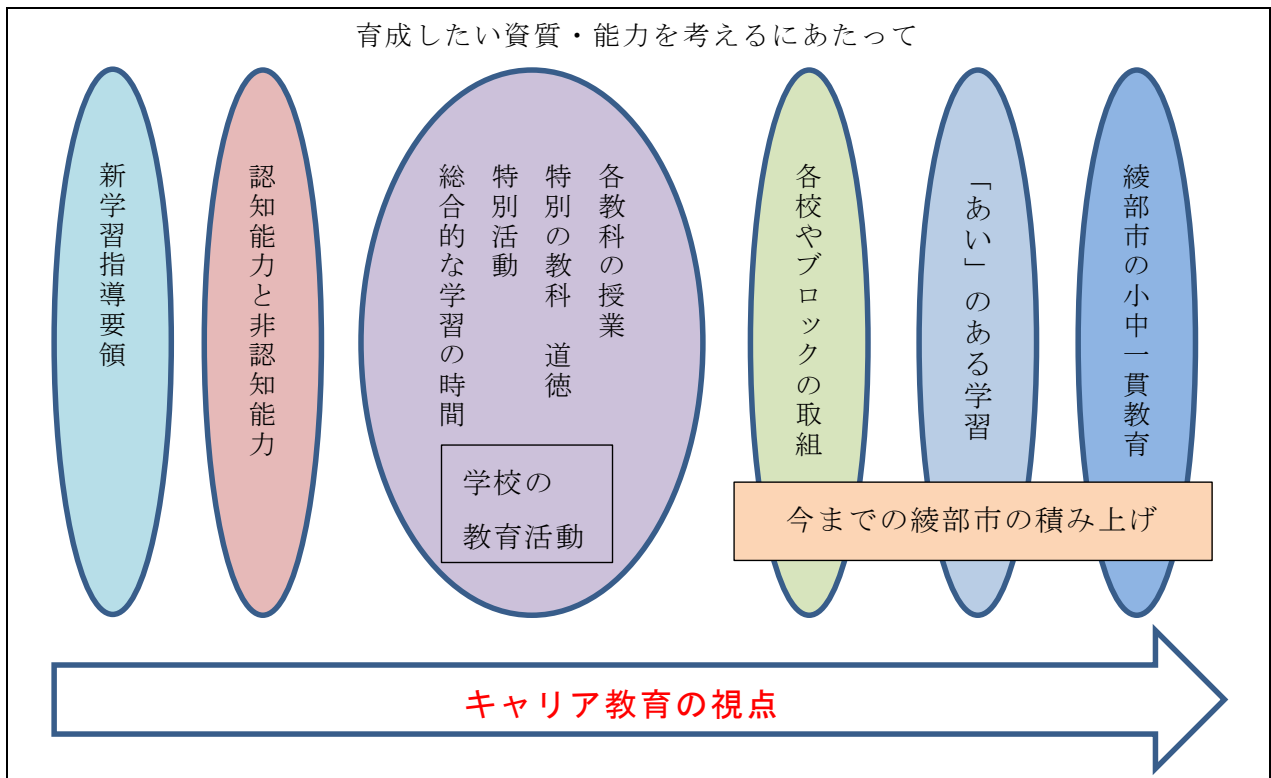


認知能力



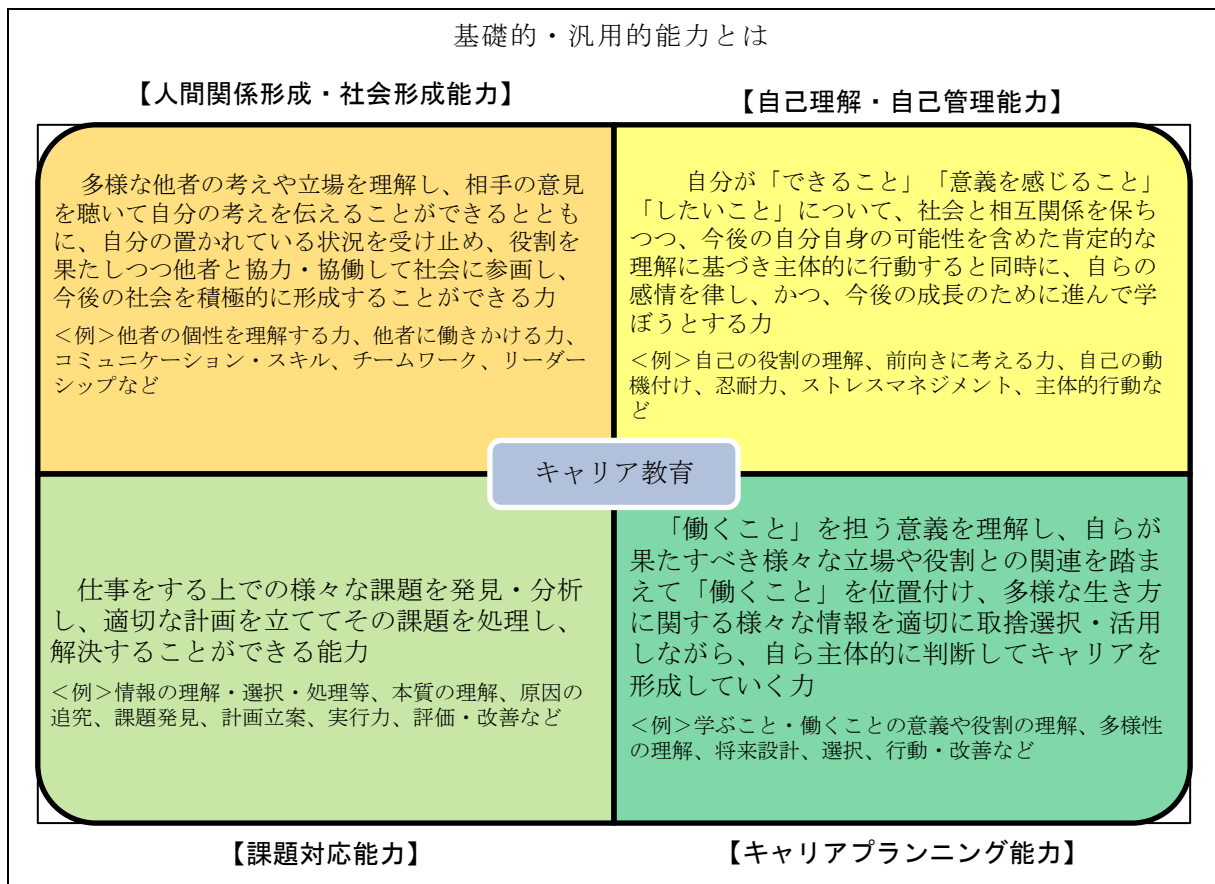
非認知能力

国や府の方向性を受けて、新学習指導要領の「肝」ともいえるべき「資質・能力」をどう設定するべきかを考えたとき、今まで綾部市で、さらには各校・園およびブロックで取り組んできたことを大切にして、キャリア教育の視点で考えていきます。



キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」〔中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」

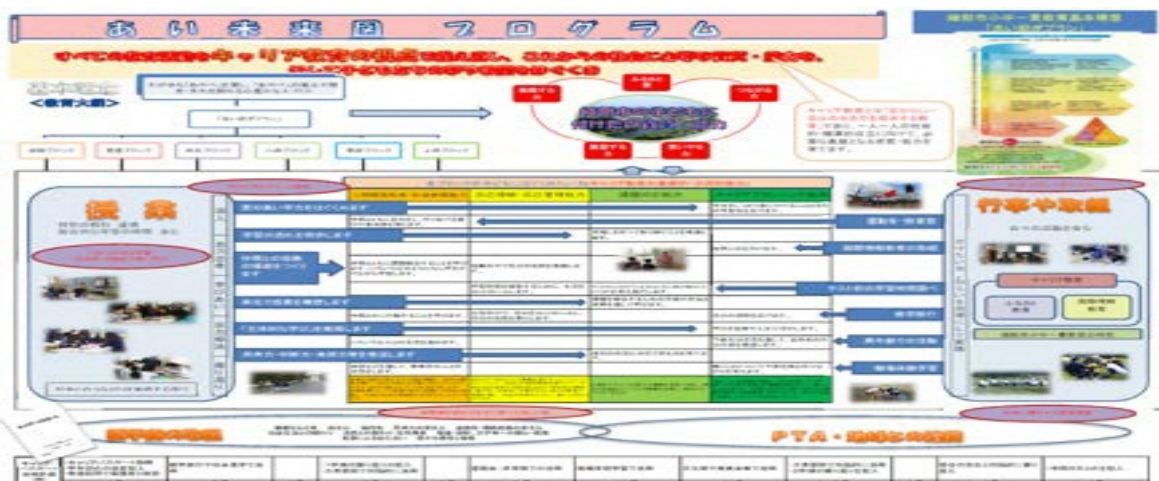
(平成 23 年 1 月 31 日)] と定義されています。また、キャリア教育により、次の 4 つの基礎的・汎用的能力を育成することが目指されています。



これはまさに、学ぶことと社会とのつながりを意識することであり、非認知能力を含む、「資質・能力」設定の柱となります。

綾部市では、キャリア教育について「自分らしい自分の生き方を探求する教育」と独自の定義を行い、キャリア教育の視点ですべての教育活動を貫く概念図として「あい未来図プログラム」を作成しました。

教育実践については、大きく変えるものではありません。ただ、今までの実践をキャリア教育の視点で捉え直し、整理し、ねらいを明確化＝付けたい「資質・能力」を強く意識していこうとしているのです。



## ② 「主体的・対話的で深い学び」を実現する「あい」のある学習

新教育課程の中では、子どもに育みたい「資質・能力」を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。綾部市では、これを、積み上げてきた「あい」のある学習の推進により実践していくことを考えています。「あい」のある学習は、子ども同士の関わりあいにより、子ども主体の授業を進め、子ども自らが課題の解決を図っていくことをねらっているからです。

では、「あい」のある学習で示されている学習活動が、子どもに付けたい「資質・能力」とどうかかわっているのかを以下に示してみます。

「あい」のある学習の学習活動		関連する力（基礎的・汎用的能力）例
導入 ・見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の授業のめあてを明示する。</li> <li>・1時間の流れを明示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で課題解決のための道筋を学ぶこととなります。 (課題対応能力)</li> </ul>
自力思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かること、分からないことを明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こうした整理をすることは自己理解につながります。 (自己理解・自己管理能力)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに考え、自分の考えをもつ。</li> <li>・説明の仕方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参画の意識を持つこととなります。 (人間関係形成・社会形成能力)</li> </ul>
学びあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの考えを発表し、交流する。</li> <li>・様々な考えを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との交流をしたり、自分の意見を発表したりすることはコミュニケーション能力を培います。 (人間関係形成・社会形成能力)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団でよりよい解決を図る。</li> <li>・友だちの考えに対する自分の意見を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えの見えない課題に対して、他者と協働して解決を図ることは今後の社会において重要です。 (課題対応能力)</li> </ul>
自力解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え直し、見直しをする。</li> <li>・自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の中に学習を取り入れていく作業を通して、学習への理解を深め、自分の考えを強固なものにしていきます。 (課題対応能力)</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で内容の理解をまとめる。</li> <li>・めあての達成度を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習が理解できたかどうか、メタ認知を働かせます。 (自己理解・自己管理能力)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな気づきを整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことが前後の学習につながっていることや生活の中に活かされていることに気付くことは、さらに学びへの意欲を高め、自分の将来の展望へとつながります。 (キャリアプランニング能力)</li> </ul>

このように、子どもは「あい」のある学習の中で、教科の学習内容だけでなく、様々な「資質・能力」を身に付けていくと言えます。ただ、それは、教師が意識しながら、日々の授業をしてこそのことです。

また、最終的には、相互に学びあうことで問題解決を図っていく授業を目指

すとしても、即、それが実現できるものではありません。年度初めからの意図的な学級経営が行われることが大切ですし、発達段階を考慮しながら次第に作り上げる視点も必要です。

さらに、教科等の本来のねらいを達成することが第一であり、1時間の授業で4つの基礎的・汎用的能力をすべて意識することは難しい場合があります。ブロックで重点的に育成したいと考えている「資質・能力」、例えばそれが「つながる力」であれば、人間関係形成・社会形成能力にこだわって授業実践・研究を行い、系統性を整理して、ブロックの財産とすることができます。

このように新教育課程の中で、キャリア教育の視点を意識することが「あい」のある学習を実践する際の質的な充実につながります。

「あい」のある学習については、各校・各教室で実践が行われ定着しつつある一方で、形ばかりになってしまっている場合もあります。

新教育課程への対応とともに、「あい」のある学習に込められた「魂」というべきものを語り継いでいきたいというのがこの冊子のねらいです。

では、「あい」のある学習とは何なのか、次章から改めて確認をしていきます。



## 第2章 「あい」のある学習の成り立ちと基本概念

### ① 「あい」のある学習の成り立ち

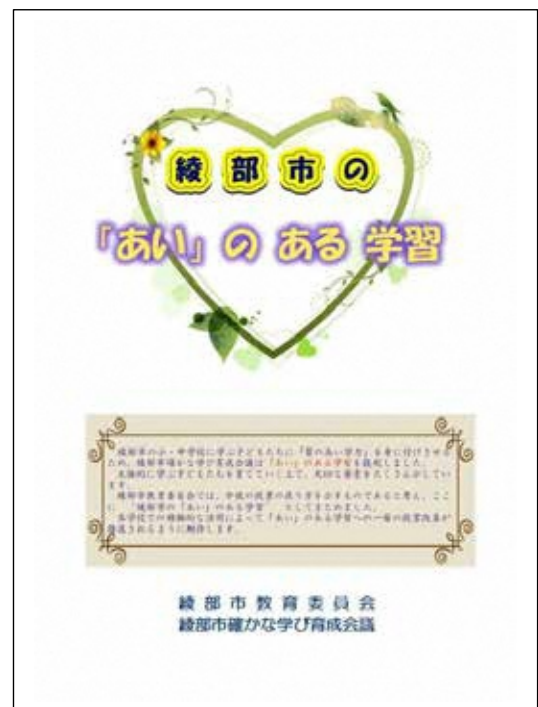
平成19年度というのは、前年12月に教育基本法が改正され、これに伴い教育関係法規が次々に改正されるという、戦後の学校教育にとって大きな転換点となる年でした。

改正された学校教育法に示された新しい学力観に合わせて、京都府も「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む意欲・態度」が統合された学力として「質の高い学力」を示しました。また全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」と略）もこの年から実施されました。

これを受けて綾部市では「確かな学び育成会議」を組織し考えていくことにしました。主なメンバーは、教育委員会の指導主事の他、小中学校の校長会・教頭会の代表、学校教育研究会（以下「学研」と略）の国語部会、算数・数学部会の代表者でした。

会議では、当初は全国学調を活用して、基礎的・基本的な内容を定着させるために、課題のある問題を分析し、課題克服のための問題集に始まり、指導事例集や回復を確かめるための「確かめテスト」を作成し、各校に提供しました。

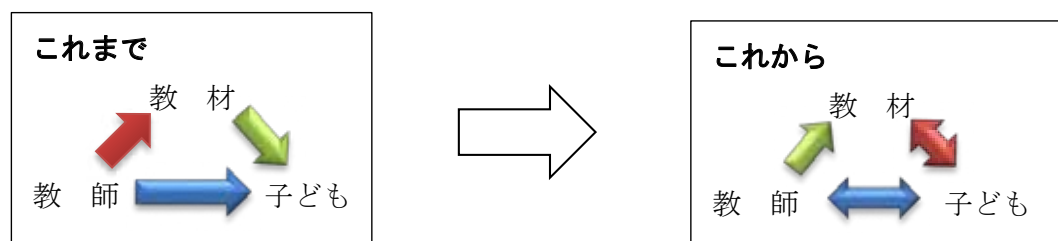
その後、年度を重ねる中で、調査・テストの事後指導ではなく、新しい学力観に対応する学力を付ける授業づくりの必要性が提起され、その方法を探る授業研究会や先進校視察等を重ねました。そして、綾部市が今後目指すべき授業のポイントをまとめたものを「綾部市の『あい』のある学習」として冊子化し、平成24年度末に市内各校園の全教職員に配付しました。【右図】



### ② 「あい」のある学習の基本概念・・・大切にしている精神

「あい」のある学習では、授業は教師が教えるものではなく、児童生徒を中心に据えて、教師と児童生徒と教材の三者で創りあげるものであるという授業観をベースにしています。

【下図】

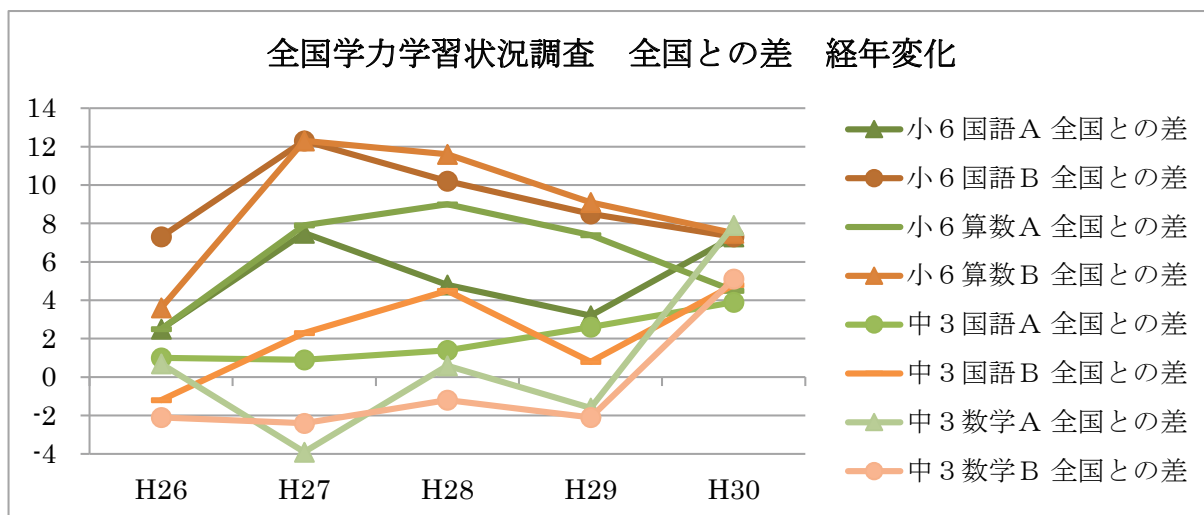


そのために大切に、実践してきたのが、学習基盤としての『あい』のある教室と学習の基本姿勢である『あい』のある学びと質の高い学びを目指す『あい』を求めての三点であったということになります。次章では、それを新教育課程に即した形で示します。

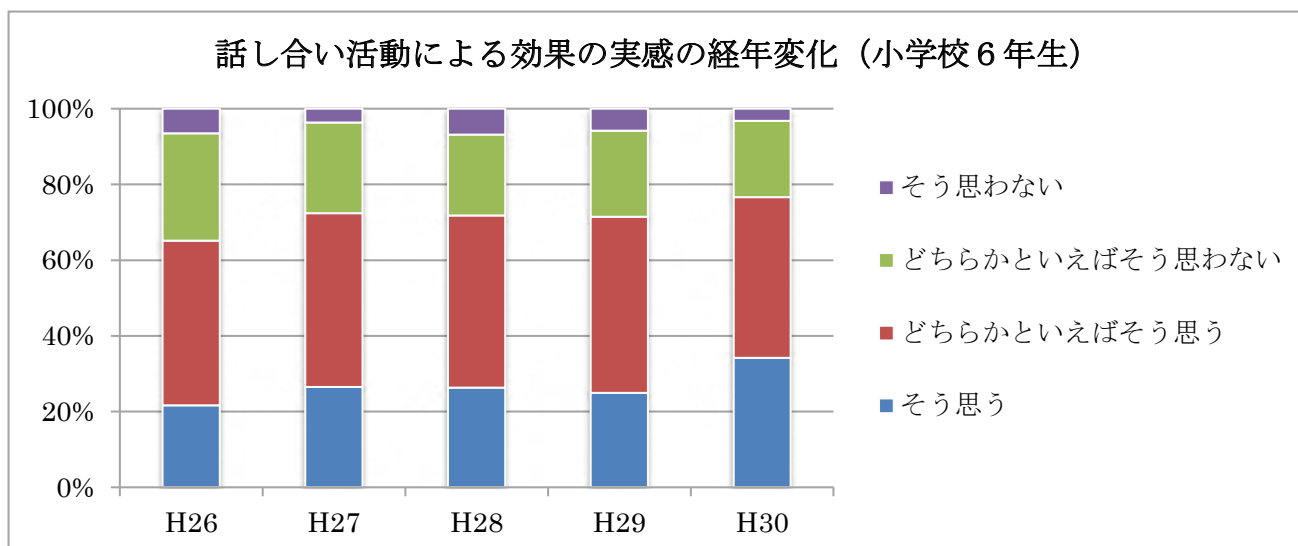
### ③ 「あい」のある学習の成果・・・授業改善と学力の向上

それでは、平成25年度から実践を進めてきた「あい」のある学習は、どのような成果があったのでしょうか。

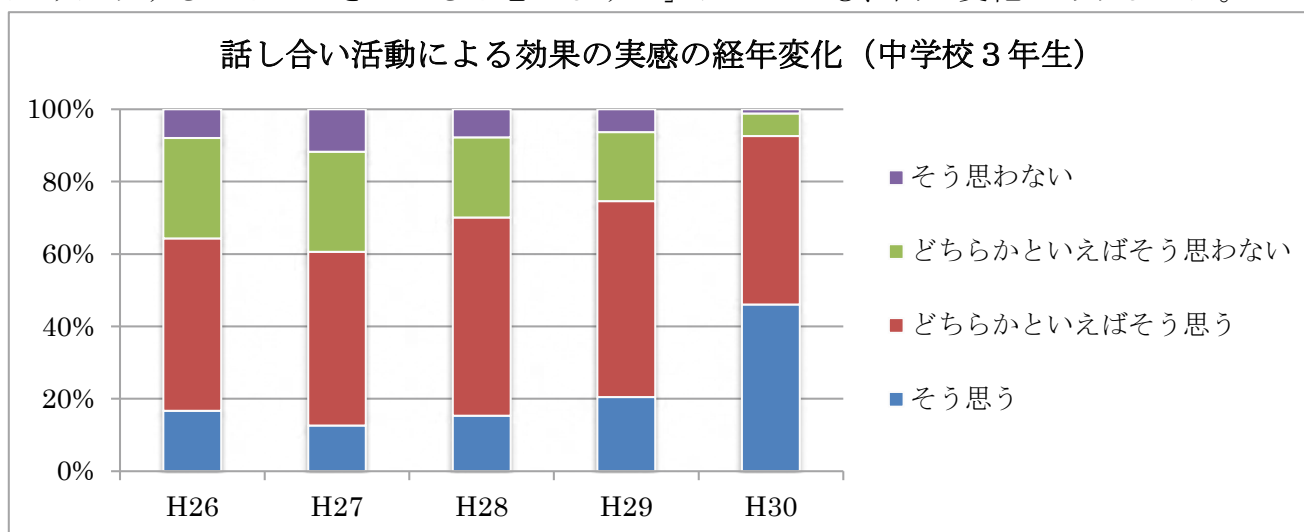
一つには、それまで教師主導型が中心であった授業が、児童生徒主体のものに改善されてきました。その結果、児童生徒の学びへの意欲が高まり、また相互に学びあうことで、下のグラフに示すように、基礎・基本の力はもとより活用力が確実に身に付いてきました。



また質問紙の回答にも、児童生徒の主体的に学ぶ力が伸びてきたことがうかがえます。例えば、小学校6年生の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問では、次のような変化がありました。

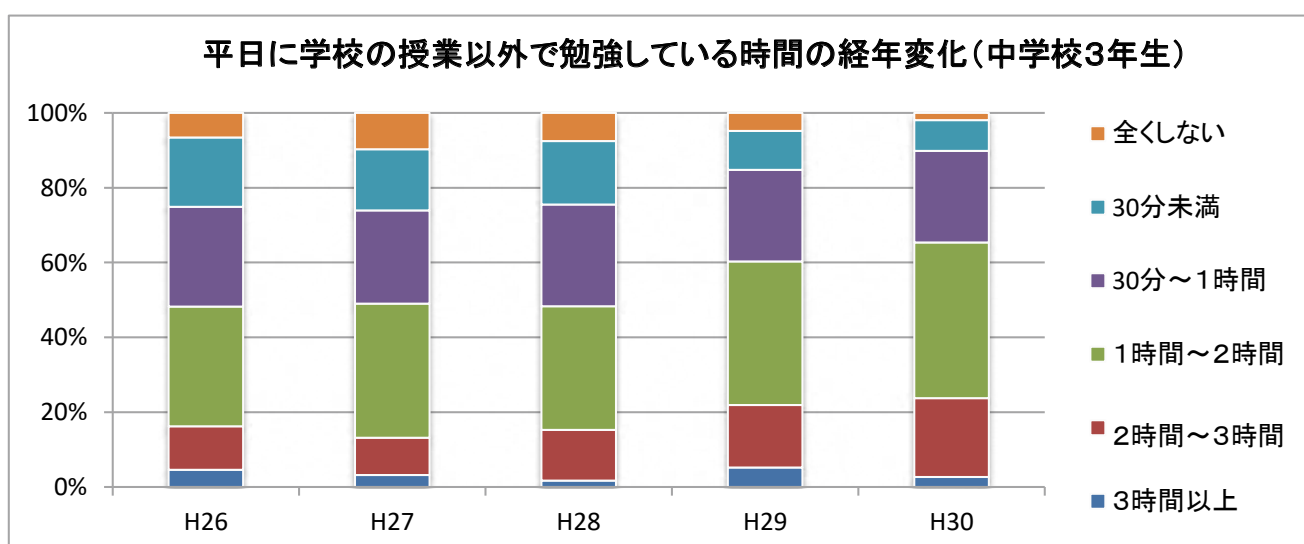
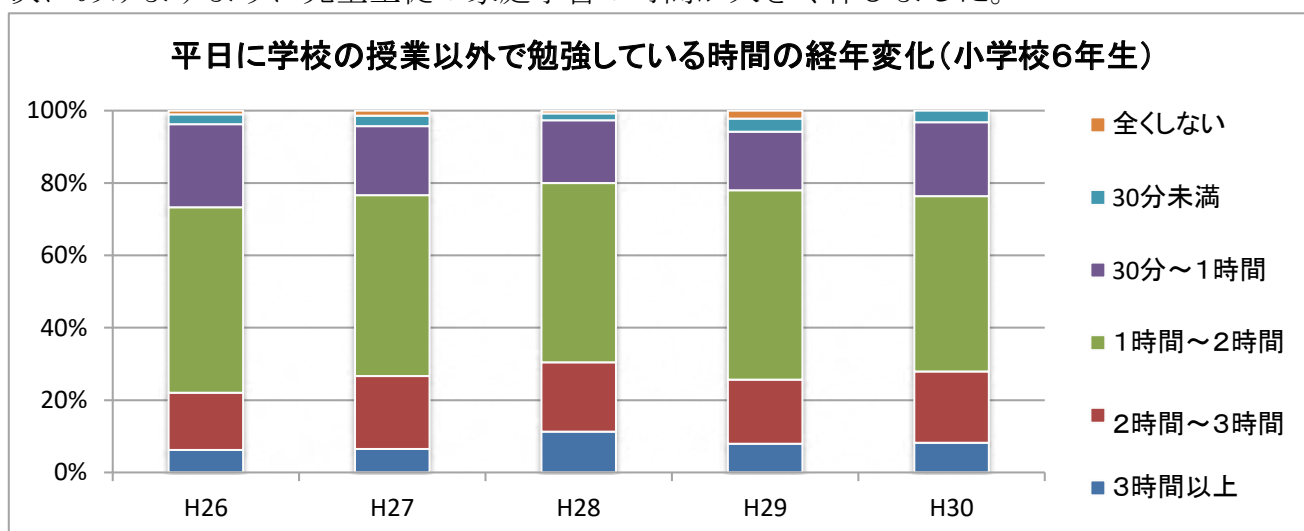


中学校の同じ内容の質問「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」についても、同じ変化がありました。



いずれの結果からも、「あい」のある学習により、児童生徒の学びあいが着実に進展していることがうかがえます。

また、「あい」のある学習とセットで進めている「8コマ学習」についても着実に定着し、次にあげますように児童生徒の家庭学習の時間が大きく伸びました。



## 第3章 「あい」のある学習の基盤



### ① 「あい」のある教室づくり(学級経営)

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、その基盤として「あい」のある教室づくり(学級経営)が必要です。

#### 生徒指導の面から

生徒指導の三機能を活かして

- ★ 自己決定の場がある
- ★ 自己存在が感じられる
- ★ 共感的人間関係ができています

#### 特別支援教育の面から

ユニバーサルデザインの視点を活かして

- ★ 環境のユニバーサル化
- ★ 学級経営のユニバーサル化

一人一人の人格の尊重、  
個性の伸長を図り、  
自己指導能力を育てる

### 「あい」のある教室

一人一人に応じた指導  
や支援が、みんなの学び  
やすさにつながる

生徒指導の三機能とユニバーサルデザインの視点を活かした「あい」のある教室

#### (1) 集中しあう「あい」のある教室

- ☆ 整理整頓された、美しい教室は落ち着きやすくなります。
- ☆ 教室の壁面をシンプルにするなど、余分な刺激が少ないことで、学習に集中しやすくなります。
- ☆ 情報が整理され見通しが持ち易くなると、自信を持って行動できるようになり、自己決定の場が増え、自己有用感・自己肯定感が高まります。

#### (2) 仲間を大切にしよう「あい」のある教室

- ☆ ルール・約束などを「明確化」「見える化」することで、みんなで守る意識が高まります。
- ☆ 友達とかかわりあう場や、集団の中の自分を意識できる機会を作ること、自分について考える(振り返る・展望する)力が付きます。

#### (3) 居心地のよい「あい」のある教室

- ☆ 共感的理解と相互理解があると、温かな雰囲気と人間関係が深まり、教室が安心できる居場所となります。

「あい」のある教室を支える「あい」のある学校をみんなで創りましょう。

伝えあい

学びあい

磨きあい

- 学校職員の全員が同じ方向で、一貫性のある指導をしましょう。
- 「気になる」子どもの背景をチームで探り、組織的に対応しましょう。

助けあい

考えあい

悩みあい

喜びあい

## ② 「あい」のある教室のポイント

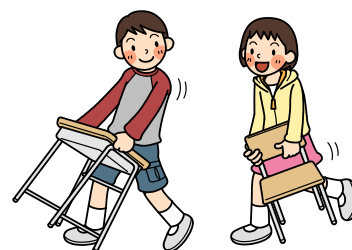
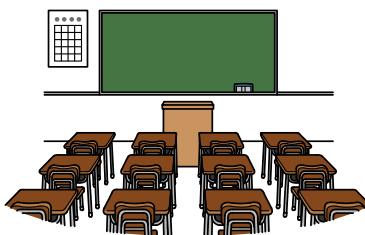
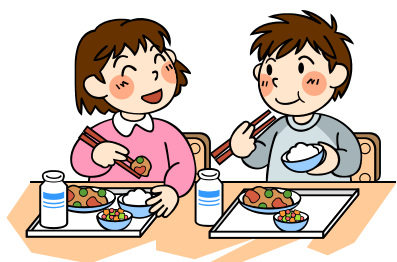
自分の実践を自己点検してみましょう。

集中しあう「あい」のある教室

仲間を大切に  
しあう「あい」のある教室

居心地のよい  
「あい」のある教室

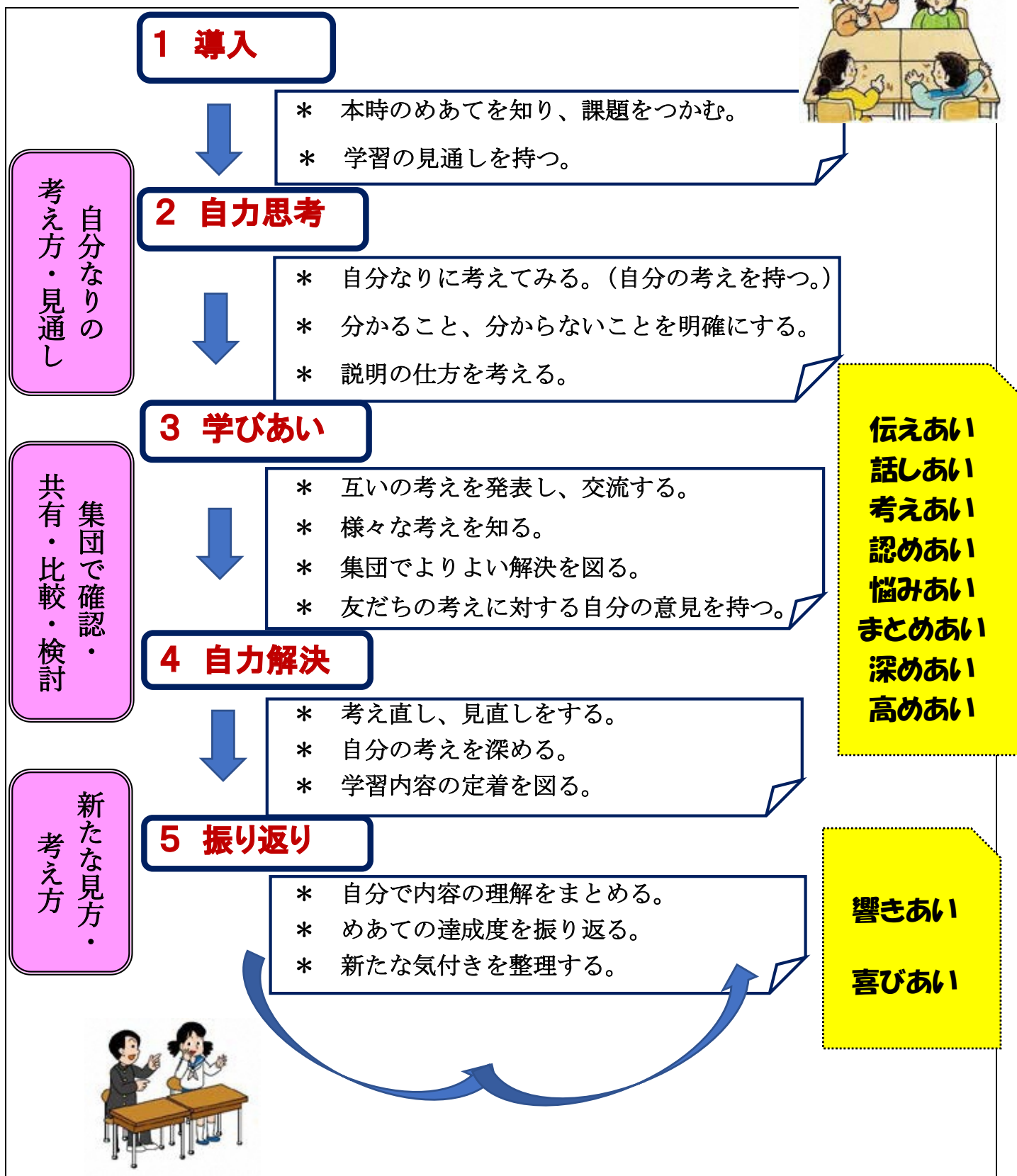
「あい」のある教室を実践するための教師の自己チェックカード			
「あい」のある環境づくり	1	掃除の行き届いた、整理整頓された教室を心掛けている。	
	2	教室の前面や側面は掲示物を精選し、シンプルにしている。余計な音が無いように心掛けている。	
	3	物の置き場所を決めたり、提出物を入れるかごを用意したりして、自分ができるよう配慮をしている。	
	4	行事や1日の流れなどの予定を確認し、見通しが持てるようにしている。	
	5	学習や生活のルールや約束、当番活動の役割分担などを分かりやすく示し、集団の全員が理解できるようにしている。	
「あい」のある人間関係づくり	個への心配り	1	一人一人の「自分らしさ」（個性）を認め大切にしている。
		2	正しい言葉遣いや挨拶、返事、名前の呼び方を意識して指導している。
		3	「よくできたね」「がんばっているね」などのほめあい・励ましあい・認めあいの言葉をかけている。
		4	よい言動をほめ、好ましくない言動は正している。
		5	発言が少ないなどの自己表現が苦手な児童生徒の思いを大切にしている。
	仲間づくり	1	人の話をしっかり聞き、友だちの意見にうなずくなどの反応をするように促している。
		2	考えを交流し、お互いの考えの違いに気付かせている。
		3	間違った応答に対して、冷やかしたり笑ったりしないように指導している。
4	相互評価を取り入れ、お互いのよさを認め合えるようにしている。		
「あい」のある授業づくり	1	教師主導にならず、児童生徒の思いに沿った授業を心掛けている。	
	2	本時で付きたい力・ねらいを明確化し、学習の見通しを持たせている。	
	3	指示や発問は目的や内容を正しい言葉で端的に伝えている。	
	4	思考を揺さぶる発問を工夫している。	
	5	自分の考えを持つ場、思考する場を設定し、自分の考えの理由や根拠を明確にさせている。	
	6	自分の考えを伝える場を設定している。	
	7	発言をつなげ、集団での学びあいとなるようにしている。	
	8	振り返りや次の学習を考える場、学んだことを活かす場を設けている。	



### ③ 質の高い学びを求めて

◆ 「あい」のある学習【主体的・対話的で深い学び】を進めるために

#### 1 時間の授業の基本的な流れ



## 実践例にみる授業のポイント

単元指導計画に、『『あい』のある学習』【主体的・対話的で深い学び】ができる時間を明確に位置付け、実践していきましょう。

### ◆ 国語科5年「天気を予想する」の実践から

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動
1	前時の復習	一斉	○ 前時の学習を復習する。
2	めあての確認		○ めあてを知る。 どの資料が一番大事だろう。
3	資料と本文の対応	ペア 一斉	○ それぞれの資料が、どの文章と対応しているか読み取る。
4	資料の重要度ランキング作成	個別	○ どの資料が一番大事か、どの資料が一番大事でないかを根拠を明確にして考える。
5	交流	グループ 一斉	○ 一番大事だと思う資料と一番大事でないと思う資料と、その理由を交流する。
		一斉 個別	○ 一番大事でないと思う資料について、「なぜ筆者はこの資料を用いたのか。」「この資料は無くしてしまってもよいのか。」を話し合い、筆者の論の展開について考える。
6	まとめ	一斉	○ 本時の学習をまとめる。
7	振り返り	個別	○ 本時の学習を振り返る。

「あい」のある学習で【主体的・対話的で深い学び】を進めるために

#### ① 導入

- ・ 主体的に学べる「めあて」と課題設定の工夫をする。
- ・ 学習の見通しを持たせる

#### ② 自力思考

- ・ 個々に判断や思考する時間を確保する。
- ・ 根拠を明確にした自分の考えを持たせる。

#### ③ 学びあい

- ・ 個別・ペア・グループ・一斉等、学習内容により多様な学習形態を工夫し、自分の考えを伝えあい、話しあい、深め合い、学びあう場を設定する。

#### ④ 自力解決

- ・ 様々な見方や考え方に気づいたり、自分の考えを見直したり、より広げたりして深めさせる。

#### ⑤ まとめ・振り返り

- ・ 全体で共有させ、個々に学習内容をまとめさせる。
- ・ 自己評価や相互評価により、めあての達成度を振り返らせる。
- ・ 新たな気づきを大切に、次への意欲につなぐ。

自分なりの  
考え方・見通し

集団で確認・  
共有・比較・検討

新たな見方・  
考え方

\* 次ページから掲載の

☆ 『『あい』のある学習』具現化のためのポイント

☆ 『『あい』のある学習』の授業研チェックシート

を活用して授業研究会を行い、授業力・実践力を伸ばしていきましょう。

## ◆ 「あい」のある学習具現化のためのポイント

### ＜自分なりの考え方・見通し＞

- 子どもが学びたいと思うような**導入**の工夫がされているか。
- 【**主体的に学ぶ**】ために、**めあての設定**について子どものものであるような工夫がされているか。
- 子どもが見通しを持つように、**授業の流れ**が明示されているか。
- 子どもたちが考えるための適切な**教材・教具**の工夫がされているか。
- 教師の説明**は簡潔で、分かりやすいか。
- 子どもが考え、発言したくなるような**発問**であるか。
- 課題の設定**は適切か。



### ＜集団で確認・共有・比較・検討＞

- 一人一人が【**主体的に学ぶ**】ための**学習形態**の工夫が図られているか。
- 子どもの発言をつなぎ、話しあい【**対話的な学び**】を深めるような**教師のコーディネート**があるか。
- 話しあい**を充実させるための工夫があるか。
- 思考を広げ深める子どもの**学習活動**が十分に保障されているか。【**深い学び**】(認めあい・聴きあい・伝えあい・助けあい・励ましあい・教えあい・響きあい・喜びあい・考えあい・話しあい・学びあい・深めあい・悩みあい・まとめあい・競いあい・高めあい・練りあい)

## 「あい」のある学習

### ＜授業を支える基盤として＞

- 「あい」のある**学級経営**が行われているか。
- 子どもに**どんな力を付けたいか**が明確か。
- 学習指導要領**に基づいた授業構想・単元構想となっているか。
- 単元を見通した構想**がなされているか。
- 十分な**教材研究と準備**がなされているか。
- 発達段階**を踏まえた手立てがとられているか。
- 話の聴き方や話し手の声の大きさなど**学習規律**が定着しているか。
- 小中のつながり**を意識した授業構想となっているか。

### ＜新たな見方・考え方＞

- めあてに対しての**振り返り**をしているか。
- 子どもの**達成感や充実感**が感じられるか。
- 1時間の学習を振り返ることができる**板書**となっているか。
- 学んだことが**次の学習や生活**に活かされようとしているか。【**深い学び**】





◆ 「あい」のある学習の授業研究チェックシート

( )月( )日( )曜日( )校時 綾部市立( )小・中学校 ( )先生 教科( ) 単元( )

1 時間の学習の流れ	視点 点	チェック
1 導入	導入の工夫がされているか。 【主体的に学ぶ】ために、 <u>めあての設定</u> が子どものものとなるような工夫がされているか。	
自分なりの考え 方・見直し	子どもが見通しを持つように、 <u>授業の流れ</u> が明示されていたか。 子どもたちが考えるための適切な <u>教材・教具</u> の工夫がされているか。 5 <u>教師の説明</u> は簡潔で、分かりやすいか。 6 子どもが考え、発言したくなるような <u>発問</u> であるか。 7 <u>課題の設定</u> は適切か。	
集団で確認・共有・比較・検討	8 一人一人が【 <u>主体的に学ぶ</u> 】ために <u>学習形態</u> の工夫が図られているか。 9 子どもが発言をつなぎ、話しあい【 <u>対話的な学び</u> 】を深めるような <u>教師のコーディネート</u> があるか。 10 <u>話しあい</u> を充実させるための工夫があるか。 11 思考を広げ深める子どもの <u>学習活動</u> が十分に保障されているか。【 <u>深い学び</u> 】(認めあい・聴きあい・伝えあい・助けあい・励ましあい・教えあい・響きあい・喜びあい・考えあい・話しあい・学びあい・深めあい・悩みあい・まとめあい・競いあい・高めあい・練りあい)	
4 自力解決	12 めあてに対しての <u>振り返り</u> をしているか。 13 子どもが <u>達成感や充実感</u> が感じられるか。 14 1時間の学習を振り返ることができ <u>板書</u> となっているか。 15 学んだことが <u>次の学習や生活</u> に生かされようとしているか。【 <u>深い学び</u> 】	
新たな見方・考え 方	16 「あい」のある <u>学級経営</u> が行われているか。 17 子どもに <u>どんな力をつけたいか</u> が明確であるか。 18 <u>学習指導要領</u> に基づいた授業構想、単元構想となっているか。 19 <u>単元を見通した構想</u> がなされているか。 20 十分な <u>教材研究と準備</u> がされているか。 21 <u>発達段階</u> を踏まえた手立てがとられているか。 22 話の聴き方や話し手の声の大きさなど <u>学習規律</u> が定着しているか。 23 <u>小中のつながり</u> を意識した授業構想となっているか。	
授業を支える基盤として		
【メモ】		

#### ④ 「自ら学ぶ力」を高めるために

##### ◆ 家庭学習の習慣を育もう

すべての児童生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、「自ら学ぶ力」を育てる観点から、家庭学習の充実にも取り組んでいくことが大切です。

すでに多くの学校が「家庭学習の手引き」等を作成し、様々な工夫をしながら家庭学習の取組を進めていますが、学級や学年でばらつきがないか、児童生徒の実態や学校の課題を踏まえているか等、定期的な確認と学校全体での共通理解を図ることが重要です。

また、小学校と中学校での宿題の出し方の違いで中学校に進学した生徒が戸惑うことのないよう、家庭学習も児童生徒の立場に立ち、学校間の接続を意識した小中一貫教育としての取組を進めましょう。

##### ◆ 「8コマ学習」で授業と家庭学習をつなごう

家庭学習を充実させるには、保護者の協力が不可欠です。家庭学習の大切さについて、保護者に十分な説明をしたり、PTAの協力体制を得たりすることにより、学校と家庭が協同して取組を進めるようにしましょう。

綾部市では、「自ら学ぶ力」を育てるために、「8コマ学習」システムを推奨しています。

「8コマ学習」とは、原則として、毎日8コマの時間割（学校6コマ・家庭2コマ）とし、家庭学習の時間割を保護者と子どもで作れるように企画するものです。学校での6コマの学習は、小中学校それぞれの教育課程による各教科等の授業です。そして、家庭での2コマの学習は家庭学習の時間で、学校からの宿題と自分で考えた計画による自主学習をする時間で構成します。

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
① 学校での学習 [各教科等の授業]						② 家庭での学習 [宿題+自主学習]	

- ① 学校での学習
- ・ 通常の教育課程による計画的な学習

- ② 家庭での学習
- ・ **宿題**と自分の計画による学習（**自主学習**）
  - ・ 家庭学習の1コマの時間の長さは、子どもの学年やその日の都合などを考慮しながら家庭で決める。
  - ・ 「家庭学習の手引き」等を活用する。
  - ・ 宿題の内容は、授業とのつながりや子どもの実態を考慮する。



## ◆ 家庭学習＜宿題＋自主学習＞で「自ら学ぶ力」を育てよう

まず、家庭学習は「宿題」を基本とし、知識理解の定着のための復習を中心とすることが大切です。基礎・基本の定着を図る宿題に取り組む中で、「自分に必要な学習は何だろう。」と考えさせることが、「自ら学ぶ力」を付けることにつながります。

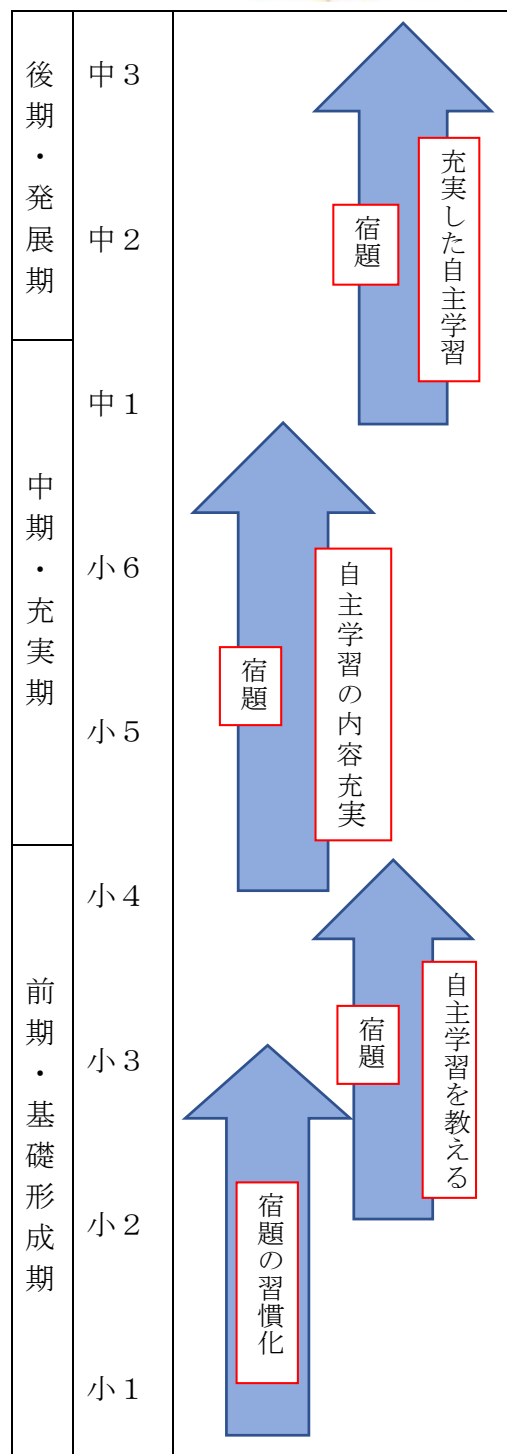
そして、予習・復習をはじめ苦手な問題や興味・関心を持ったことを調べるなど、自分で内容を考えて計画的に行う「自主学習」に取り組ませることが、「自ら学ぶ力」を育てるために重要です。

また、宿題や自主学習の内容については、授業との関連を重視することや、児童生徒一人一人の実態に応じたものにすることが大切です。

家庭学習の習慣については、自然に身に付くものではなく、学校や保護者の適切な指導・支援によって、徐々に身に付いていくものです。

そこで、右図のように、計画的に育てる例が考えられます。小学校低学年では、宿題を通して家庭学習の習慣を身に付けさせることを中心とします。小学校中学年ぐらいからは、自主学習にどのように取り組めばよいかを教えます。高学年ぐらいからは、その内容を充実させたり、有効なノートを使い方を考えさせたりします。そして、中学校では、宿題と内容の充実した自主学習に自ら進んで取り組めるようにしていきます。

このように、小中9年間を見通して「自ら学ぶ力」を育てていきましょう。



## 第4章 「あい」のある学習の今後

### ① 担い手の育成

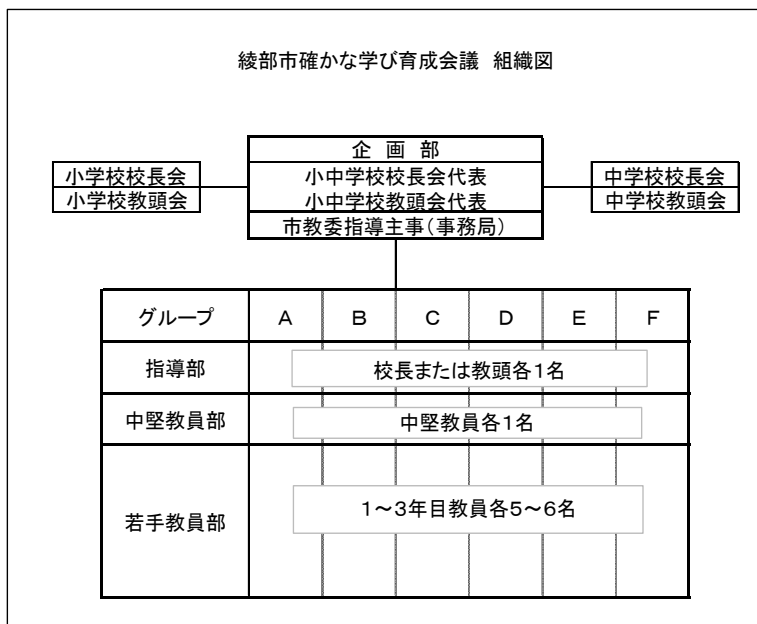
平成24年度末に発行した「綾部市の『あい』のある学習」の実践に基づき、平成25年度末には、その「実践事例集」や「推進・充実ハンドブック」を作成しました。

これらを踏まえ、綾部市確かな学び育成会議は、平成26年度から「質の高い学力」を付けるための「質の高い授業」を実践する綾部市の教員を育成するという現在の方針に転換をしました。人材育成に転換した背景には、全国的な団塊の世代の大量退職と、それを補う教員の大量採用・配置という状況があります。そうした状況は綾部市においても例外ではなく、綾部に着任された先生方に「あい」のある学習を実践的に学んでいただくことで先輩教員が培ってきた綾部の教育スキルと教員スピリットをしっかりと受け継ぎ、「質の高い授業」の実践者になってほしいという願いがあります。そのことが綾部市の児童生徒に「質の高い学力」をつけることにもなるからです。

現在この会は、小中学校の校長会・教頭会代表と市教育委員会指導主事で構成する企画委員会のもと、数名の中堅教員及び教職3年目までの若手教員で構成され、校種や中学校ブロック並びに経験年数等を勘案した数グループに分かれて中堅教員の実践に学ぶという取組をしています(右図参照)。

若手教員の感想を見ると、単に授業スキルだけでなく、そのバックボーンをなしている学級経営観などの教育観も学んでいることがうかがえます。

この会の他、各校においては、校内授業研究を通して同様に実践力向上を図っています。また前述した綾部市学校教育研究会でも、各部会で「あい」のある学習の授業実践研究が活発に行われ、また府や近畿・全国の公的な研究団体とも交流し、「あい」のある学習の担い手育成を図っていただいています。



### ② 校内研修・授業研究会の充実

それでは、その校内研修・授業研究会はどのように充実させればよいのでしょうか。詳しい手順や内容、留意点等については前項で触れました平成26年3月に発行しました「綾部市の『あい』のある学習 推進・充実ハンドブック」に詳述していますので、ぜひ一読ください。

内容を新学習指導要領に合わせてダイジェスト化し、「研究推進の手法例」として次に示しておきます。研究推進も、基本的に「あい」のある学習と同じで、教職員による「主体的・対話的で深い学び」であることが分かります。

≪ 研究推進の手法例 ≫

ステップ	研究の手順	実践例
<p>1 「あい」のある学習を進める基盤をつくる</p>	<p style="text-align: center;"><b>研究の方向性をみんなで確認する</b></p> <p>① 研究を推進することが、学校（ブロック）の教育目標の具現化につながることを共通理解する。</p> <p>② 新指導要領の内容を踏まえて、教育目標の具現化のために今後子どもたちに付けておかななくてはならない力（資質・能力）、その力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをしていくこと、そのための方法として「あい」のある学習を推進することが必要であることを共通理解する。</p>	<p>○ 実態調査やアンケートなどを行い、目標達成のために目指す研究のイメージや取組を構想する。</p> <p>○ 目標・研究テーマ・取組とそれを担う組織など、関連がわかる全体図を作成し、皆で確認する。</p> <p>○ 全体図を見ながら、皆で研究のイメージを膨らませ、夢を広げて、研究に対する前向きな気持ちをつくる。</p> <p>○ 「あい」のある学習の基本と手法を確認する。</p>
<p>2 研究にのぞむ教員の基本姿勢をつくる</p>	<p style="text-align: center;"><b>日常的で継続的な実践研究をする</b></p> <p>① 学校（ブロック）の教育目標に迫るための、研究テーマを追究する研究推進を行い、毎日の授業に反映する工夫をする。</p> <p>② 教員一人一人が自分なりの課題意識を持って主体的に研究・研修に参加し、そこで得たものをそれぞれの授業に活かせるようにする。</p>	<p>○ 自己点検できる指標を設定し、毎日毎時間、授業点検をする。</p> <p>○ 月に1回の校内研で、授業実践についての相互交流をする。</p> <p>○ 研究テーマに基づいて個人のテーマを設定し、そのテーマに沿った授業公開を行い、参観者のコメントを交流する。</p> <p>○ 校内でグループを編成し、グループ内で独自に授業研究をする。</p> <p>○ 授業参観週間を設定し、相互に授業参観をする。</p>
<p>3 質の高い学びを引き出す授業を追究する</p>	<p style="text-align: center;"><b>互いに高め合う授業研究会をする</b></p> <p>① 研究テーマ追究のための研究授業計画を立てる。</p> <p>② 事前研を行い、教材研究を深めるとともに、授業のねらいを明確にし、授業者と参観者で共有する。</p> <p>③ ねらいに沿った研究授業を行う。</p> <p>④ 事後研を実施し、ねらいに対する授業評価を行うとともに、次の授業・それぞれの授業に繋げる。</p> <p>⑤ 成果と課題を共通確認し次の授業研究会に繋げる。</p>	<p>○ 研究テーマ追究における、各研究授業の位置づけをする。</p> <p>○ 事前研では、教員による模擬授業をするなどして、授業（研究）ポイントを明確にする。</p> <p>○ 研究授業では、参観の視点を示す。</p> <p>○ 事後研においては、できるだけ多くの教員が意欲的に発言できるように、付箋等を活用したり、指導案の拡大コピーを用意したりする。</p> <p>○ 研究便りを発行する。</p>

### ③ 「あい」のある学習の進化と発展

#### 1 小中一貫した研究推進

平成 26 年度を準備期間として 27 年度から進めてきた綾部市の小中一貫教育は、様々な取組により、大きな成果を上げてきています。枠組みが完成し充実期に入ったこれからの一貫教育では、より授業でのつながりが求められます。

その一つとして、新学習指導要領の実施を機に、内容のつながりをより鮮明にし、系統性を授業に反映させる必要があります。小学校のどの単元の学習が中学校のどの単元の学習につながっているかを小中の教員が共通理解することは、授業の導入やまとめに変化をもたらすと思われまますし、「深い学び」にもつながることでしょう。

もう一つに、授業スタイルや学習方法について、小中の一貫性と連続性を持たせていく必要があります。「あい」のある学習の目的は、本来そこにあるわけですが、今後は一歩進めて、小中で協働した研究を実施していくことをスタンダードとしていく必要があります。具体的には、前項で述べた手法を中学校ブロック全体に拡大し、小中の教員で協働して取り組む研究テーマを設定して、「あい」のある学習を軸とした授業研究が行われていくことを期待します。

#### 2 「あい」のある学習の進化と発展を願って

以上述べてきた以外に、今後の「あい」のある学習の進化と発展を願うとき、次のような視点でも考えてみてはどうでしょう。

##### (1) 「特別の教科 道徳」との関連

「特別の教科 道徳」では、「考え、議論する道徳」が求められています。「主体的・対話的で深い学び」すなわち「あい」のある学習が具現化できる時間です。授業では、中心発問に対して考え議論することに十分時間をかけて、その時間に考えさせたい価値項目に迫らせる『「あい」のある道徳』を目指したいものです。そのためには、価値項目の理解や発問の精選など深い教材研究をし、授業の中で子どもたちの議論を巻き起こす仕掛けをすることが必要となります。

##### (2) 総合的な学習の時間との関連

設定されたテーマに沿って自分で課題を設定し、友達と協働して探究学習を行い、課題を解決して成果を発信する総合的な学習の時間でも、「主体的・対話的で深い学び」すなわち「あい」のある学習が具現化できます。各教科等で学んだ知識・技能を活かし、得られた情報から自分で思考・判断し表現する…新学力観での「主体的に学びに向かう力」を育成する時間でもあります。子どもたちが「自分で学ぶ楽しさ」を味わえるよう工夫したいものです。

##### (3) 特別活動との関連

第 3 章でも述べましたように、「あい」のある学習には、「あい」のある教室が不可欠です。その学級づくりの基盤となるのが特別活動と言えます。学校行事や学級活動、児童会・生徒会活動等を通し、よりよい人間関係を形成し、お互いを高め合う集団作りの場となるよう、一人一人が集団の中で尊重されるよう配慮したいものです。

## おわりに

新教育課程に対応した「あい」のある学習は、どうあるべきなのだろう…と模索しつつ、この「綾部市の『あい』のある学習Ⅱ」を作成しました。

綾部市では、これまで、「あい」のある学習を軸にした授業実践を通して大きな成果を上げてきました。「綾部市の『あい』のある学習Ⅱ」は、その「あい」のある学習の理念を継承・発展させたものです。すなわち、きちっとした型を示すことが目的ではなく、基本理念を大切にしつつ新しい方向性を示すことにとどめました。

今後、この冊子を拠り所に、新教育課程に基づく実践研究が開始されますが、その研究の中で、皆さんの手によって「綾部市の『あい』のある学習Ⅱ」を磨き、更により良いものに改善していただくことを願っております。今後作成する実践事例集では、より進化した授業実践を、子どもの成長した姿と共に示すことができれば嬉しく思います。

後になりましたが、冊子の編集・発行にあたりお世話になりました全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和2年4月

「あい」のある学習Ⅱ 編集委員会



たくさんの「あい」を  
大きく育てましょう！

## 「あい」のある学習Ⅱ 編集委員会

令和元年度 綾部市 確かな学び 育成会議	中山 明美	東八田小学校校長	桑波 景子	綾部小学校教諭
	足立 高広	何北中学校校長	栗林 享佑	綾部小学校教諭
	川北 達史	物部小学校教頭	山中千絵子	吉美小学校教諭
	成田 浩和	志賀小学校教頭	津田 弘司	綾部中学校教諭
	四方 弘明	上林中学校教頭	船越 寿子	上林中学校教諭
令和元年度 綾部市 教育委員会	小林 直子	参事兼指導主事	村上 元宏	指導主事
	森本 重則	課長補佐兼指導主事	長野代理子	指導主事
	井上 隆史	総括指導主事		

綾部市の  
「あい」のある学習Ⅱ

令和2年4月

編集・発行 綾部市教育委員会

綾部市若竹町8番地の1